

注目スポット



絶品スイーツで話題の古民家カフェ
菓子と珈琲「朔」

2013年のオープン以来、神戸出身のオーナーが手掛けるケーキが評判を呼んでいる。モーニングセットやトーストサンドのランチも人気。中庭を眺めながらゆったりとしたひとときを過ごせる。

◆たつの市龍野町川原町106
☎0791-72-8239 ◆営業時間/9:00~19:00 (L.O.18:00) ◆休業日/木曜、第3金曜

城下町の老舗

三木露風も通った
木造回廊が残る書店

伏見屋商店

1901年築の建物は外観こそ一般的な町家だが、店内に入ると天窓から2階の吹き抜けを通して外光が降り注ぐ。少年時代の三木露風も常連だったそうで、当時は2階の回廊の書棚にもびっしりと本が詰まっていたという。

◆たつの市龍野町上川原79
☎0791-62-0091 ◆営業時間/9:00~18:00
◆休業日/日曜、第2土曜、お盆期間、1月1日~3日

道幅が狭く、また観光スポットは狭いエリアに集まっているので、龍野城に隣接する龍野公園の駐車場に車を置いて徒歩で巡ろう。



武家屋敷資料館 学び OK

鉄砲師や鍛冶職として仕えた芝辻家の邸宅。1837年の建築といわれ、式台や玄関、座敷回りなどは当時のままの姿をとどめている。

◆たつの市龍野町上霞城45 ☎0791-63-9111
◆開館時間/10:00~16:00 ◆休館日/月曜(祝休日の場合は翌平日) ◆入館料/無料



うすくち龍野醤油資料館 学び OK

うすくち龍野醤油資料館

1979年にオープンした全国初の醤油資料館で、旧社屋だった建物は国登録有形文化財。館内には原料処理場、仕込蔵、麹室などが再現され、昔の醸造道具を解説している。

◆たつの市龍野町大手54-1 ☎0791-63-4573 ◆開館時間/9:00~17:00(入館は16:30まで) ◆休館日/月曜(祝休日の場合は翌平日) ◆入館料/10円



水路に沿って白壁が続く如來寺周辺の町並みは人気の撮影ポイント。

お土産

売店の人気商品「龍野の里」シリーズ。淡口しょうゆ、刺し身しょうゆ、白だし、三杯酢、ぼん酢の5種類あり、淡口しょうゆには国産丸大豆、ぼん酢には播磨産のユズを使うなど、いずれも素材にこだわった逸品だ(各290ml、645円)。



甘いものでひと休み。城下町の和菓子店で売っている淡口しょうゆまんじゅうは、ほんのりしょうゆ味の生地とこしあんが絶妙の相性。



三木露風生家 学び OK

童謡「赤とんぼ」の作詩者、三木露風の生家。近くには露風の足跡を紹介する霞城館、赤とんぼの歌碑などゆかりのスポットが点在している。

◆たつの市龍野町上霞城101-3 ☎0791-62-0553 ◆開館時間/9:30~16:30 ◆休館日/月曜(祝休日の場合は翌平日)、祝日の翌平日 ◆入館料/無料



龍野ふるさとガイド 山本富士子さん

三木露風さんは最も親しみ深い郷土の偉人で、歌曲碑には必ず案内しています。そばに立つ「赤とんぼ」のメロディーが流れ、懐かしい気持ちになりますよ。

龍野 兵庫県たつの市
武家屋敷や
白壁のししょうゆ蔵に
脇坂時代の面影

歴史

兵庫県たつの市

1499年、赤松村秀が鶏籠山の頂に築城。1658年に龍野藩主、京極高和の丸亀転封に伴い廃城となるが、1672年、藩主に就いた脇坂安政が山麓に新たに陣屋形式の城郭を築いた。明治の廃城令によって石垣のみが残ったが、後に本丸御殿や武具櫓、埋門などが再建された。

ゆかりの武将

脇坂安政 1633年~94年

江戸幕府の老中、堀田正盛の次男として生まれ、7歳の時に信濃飯田藩主、脇坂安元の養嗣子に迎えられる。54年に家督を継いでからは江戸城の本丸修營に携わるなど幕政に貢献。72年、龍野藩に転封となり、龍野城を再建した。

城FILE 1

龍野城

別名	霞城
構造	平山城
築城者	脇坂安政
築城年	1672年
遺構	石垣
再建	本丸御殿、隅櫓、埋門など

たつの市龍野町上霞城 ☎0791-63-0907
◆開館時間/9:00~17:00
◆休館日/月曜(祝休日の場合は翌平日)
◆入館料/無料
◆アクセス/山陽自動車道「龍野」ICから約20分



現在の正面玄関に当たる埋門

START

龍野城

たつの市立龍野歴史文化資料館 学び OK

【たつのしりつたつのれきしぶんかしりょうかん】

龍野の原始から近世までの歴史を出土品や武具、民具などで紹介。「龍野城主と城下町」のコーナーでは、脇坂安政が賤ヶ岳の合戦で使った十文字槍や太閤検地帳などが見られる。

◆たつの市龍野町上霞城128-3 ☎0791-63-0907 ◆開館時間/9:00~17:00(入館は16:30まで) ◆休館日/月曜(祝休日の場合は翌平日) ◆入館料/一般200円、小学生~大学生・65歳以上100円



鶏籠山の麓に立つ平山城は1672年、信濃飯田から転封した脇坂安政が5万2000石の居城として築いたといわれる。当時の絵図を基に復元された「昭和の城」へ。埋門をくぐり石段を上ると、本丸御殿が姿を現した。藩主の邸宅だった入り母屋造りの建物は、瓦屋根のなだらかな曲線が美しい。本丸広場から一望する町並みは、陽光に輝く葺の波間から突き出したししょうゆ蔵の煙突がひととき目を引く。淡口しょうゆの産地として名高いたつの市。初代藩主、安政が製造を奨励したことで町は大きく発展し、脇坂氏は廃藩まで10代、200年にわたり「龍野の殿様」と慕われた。城から、白壁がまぶしい土塀の脇を抜け、寺院や商家が軒を連ねる小道に風情を感じながら歩けば、うすくち龍野醤油資料館に至る。醸造メーカーの社屋だったルネサンス風のれんが造りの建物内部には、木製の仕込み桶や圧搾機など昔の道具が並ぶ。ししょうゆ造りの歴史に触れた後は、かつての武家屋敷へ。かやぶき屋根の家屋も見られ、龍野藩の質素節約の方針が家臣の屋敷にも一貫していたことがうかがえる。近年では、龍野出身で童謡「赤とんぼ」を作詩した三木露風の生家が公開され、古民家を改装したカフェもオープン。江戸期からの歴史の中にたたくすむ町に、新しい風が吹いている。



本丸広場からの眺め